

第4分科会第2回 意見一覧 (2019年10月16日)

会議	番号	意見内容	姫路市対応
1	都市基盤分野 分野目標 (P2)	他の分野に比べると、都市基盤分野は一般的な言葉しか出てこない。公園や水道といった具体的な取組を入れないと、どこにでも当てはまる文言になる。	各分野における本市の特徴については背景で示しているが、分野目標の説明文についても表現を検討する。公園や水道などの具体的な取組は施策・事業の中で検討する。
2	都市基盤分野 分野目標 及び政策1 (P2,3)	市民が必要としているのは、生活関連施設がある拠点と居住地を結ぶ新たな移動手段であり、ラストワンマイルと言われている部分である。その確保ができて分野目標の「より暮らしやすい環境を整え」に繋がると思っており、分野目標の背景5点目は、各拠点間だけではないという観点を踏まえるべきである。	分野目標 背景5点目を、「市域が広く、人口の偏在が見受けられる本市においては、 <u>それぞれの地域において暮らしやすく活力あるコンパクトな都市づくりと、多様な地域が相互につながる安全かつ快適な交通ネットワークの構築が求められている。</u> 」に修正する。 政策1目指す姿を、「 <u>それぞれの地域においてコンパクトなまちづくりが進み、暮らしやすく活力ある都市となっている</u> 」に修正する。
3	都市基盤分野 分野目標及び政策1 (P2,3)	「コンパクト」と書かれているが、郡部の方で話を聞くと、イメージとしてコンパクトシティは都市機能を都市部に集中させると読め、郡部は切り捨てられるのではないかとの声が聞かれる。駅前だけ栄えて、他は衰退するようにとられている。コンパクトなまちづくりについて住民にコンセンサスが得られていないのであれば、言葉使いを検討した方がよい。	

会議	番号	意見内容	姫路市対応
4	都市基盤分野 分野目標及び政策1 (P2,3)	一番みんなが困っているのは、公共交通拠点から自宅までの移動手段である。大きく「コンパクトな都市づくり」と言い切るよりは、「コンパクトな都市づくりの方向を目指す」など、「方向を目指す」ことにすればもう少し表現が柔らかくなる。また、山間部にも配慮する必要があるのではないか。	(前半部分については前ページ参照) 現在実施しているコミュニティバスやデマンドタクシーをはじめ、地域のニーズに応じた、総合的な交通ネットワークの構築を引き続き目指していく。
5	都市基盤分野 政策1 (P3)	各地域が相互に連携することも重要で、加西市や宍粟市などを結ぶ交通ネットワークは連携中枢都市圏構想の観点からも重要であると考える。	加西市や宍粟市など隣接市町との連携の観点は重要と考えており、新総合計画では都市構造において連携拠点で示している。
6	都市基盤分野 政策1 及び政策2 (P3,5)	飾磨港から神戸空港まで、ジェノバラインのような船を待機させてはどうか。 岡山から来る人は姫路を通過して神戸に行くのではなく、姫路で降りて飾磨に来て船で神戸へ行く、関空へは神戸からの船を乗り継いで行く。そうすれば姫路市全体の活性化につながるのではないか。	民間事業者の機運の高まりに期待したい。 新しい提案であるが、本市としては、まずは市内の交通ネットワークの充実が必要であると考えている。

会議	番号	意見内容	姫路市対応
7	都市基盤分野 政策1 (P3)	交通ネットワークについて、地域の人に少し良くなったという実感がないと、コンパクトシティや交通ネットワーク等について理解を得るのは難しいのではないかと。そのため、姫路市としては対話をする場をたくさん作り、住民の意見を、同意を得るための話をしなければならない。	新総合計画を含め、市の施策を検討する際には、地元意見を聞きながら施策に反映させていくようにしている。 新総合計画については広報ひめじをはじめ様々な方法で周知を行う。
8	都市基盤分野 政策1 (P3)	自分たちのまちの景観についてあまり意識がないように思う。そこに住んでいる住民が自信を持ってここだと言える、「夢前とは」「香寺とは」と言えるようにしていくことが良いと思う。	姫路市まちづくりのためのアンケート結果では、例えば、夢前町や安富町住民は姫路の魅力として豊かな自然を挙げているなど、各地域の魅力を実感していると読み取ることができる。 また、その魅力を世代を超えて受け継ぐためにも住民意識の醸成を図っていく。
9	都市基盤分野 政策1 (P3)	地域の宝となっているものを写真で出してくれと呼びかける「宝探し手法」を用いると地域の文化的資源や、地域住民が誇りに思っている地域資源が出てくるのではないかと。	景観100選などで「宝探し手法」による地域の宝の掘り起こしを実施しており、今後も実施していく予定である。

会議	番号	意見内容	姫路市対応
10	都市基盤分野 政策1 (P3)	検討課題（ウ）に「来訪者にとって歩きたくなる」とあるが、来訪者が消費するためには留まらないといけない。「歩きたくなる」だけではなく、「留まって休みたくなる空間」という観点を踏まえて考えた方がよいのではないか。	観光や中心市街地の活性化など他の分科会の政策を含め、「留まって休みたくなる空間」という観点も考慮しながら、目指す姿を実現するための方向性や施策・事業を検討する。
11	都市基盤分野 政策1 (P4)	4ページの弱み①「バス路線の姫路駅への一極集中」について、バス路線が姫路駅に乗り入れることが悪影響になると書かれているが、姫路駅に乗り入れることはコンパクト+ネットワーク化が一定程度形成されたと考えられるため悪影響とは言えない。問題はそれを活かすための補完交通としてラストワンマイルがないことであるため、その観点を補填する必要がある	ラストワンマイルも含め、目的地までの移動に十分対応できていないという部分を加味し、「多様な目的地への移動に十分対応できない姫路駅一極集中型の公共交通網」に修正済。
12	都市基盤分野 政策1 (P4)	4ページの機会④「民間活力を活用した自立的で持続可能なまちづくりへの転換」について、交通政策基本法が施行され、その中で国民等の役割として、「その実現に向けて自ら取り組むことができる活動に主体的に取り組むよう努める」と記載されている。民間活力は事業者だけでなく、住民による輸送もできるようになっているので、住民の共助による部分も入れてほしい。	地域のニーズに応じた交通ネットワークの構築のために、住民の共助の可能性も含め、目指す姿を実現するための方向性や施策・事業の中で検討する。

会議	番号	意見内容	姫路市対応
13	都市基盤分野 政策2 (P6)	6ページの弱み②「路線バス利用者数の減少」について、中心市街地は、まちづくりにより活性化し、利用者数は下げ止まっている。一方で、郊外部では減少しているため、「郊外部の」といった文言を補ってほしい。	全体として路線バス利用者数が減少していることから、表現は原案のままとし、「郊外部」については議事録において意見として記載する。
14	都市基盤分野 政策2 (P5)	目指す姿に「歩行者や車両の道路環境が向上し、市民や来訪者が年齢や障害の有無に関わらず」とあるが、優先的に車椅子が通れるような道があっても良いのではないか。大手前通りに、車椅子の人が優先レーンがあれば、姫路は非常に障害者にやさしいまちであると来訪者が捉えてくれるのではないか。	障害の有無などに関わらず、誰もが快適に生活できることが重要であると考えている。都市基盤分野のみならずモラル啓発に努めることや他者に寄り添う意識を高めることなどを検討していく必要があると考える。
15	都市基盤分野 分野目標及び政策2 (P2,5)	大手前通りを、車椅子や、杖をついた高齢者、ベビーカーの方を優先にしてはどうか。姫路はここが良いという「売り」をつくらないといけない。	

会議	番号	意見内容	姫路市対応
16	都市基盤分野 政策2 (P5)	公共交通機関で市役所に来る場合、今は一旦姫路駅で乗り換えないといけない。バスの終点を姫路駅にするのではなく、市役所まで繋がるようなバス路線を走らせられないか。また、1日1回でもいいので姫路市の東西南北を1周するような路線があれば良いと思う。	個別の路線など詳細については、個別計画等において、交通事業者と協議、検討する。
17	都市基盤分野 政策2 (P5)	公共交通については市は要望するだけでできない。この分科会で提案があった路線について、乗っている人に対してどこに行きたいか需要を調査して、バス会社と一緒に考えて計画を作ることが必要である。	
18	都市基盤分野 政策3 (P7)	市営住宅に入りたいけれども入れない若い方がたくさんいるので、市営住宅をリフォームして、安価な家賃で市民に貸し出しても良いのではないかと。新しく建てるのではなく今ある市営住宅等を手直しして住みやすいまちを作るといった考え方も良いと思う。	市営住宅については計画的に耐震化や改修、建替を継続する予定である。 いただいたご意見を担当課と共有し、需要と供給のバランスを見ながら個別計画の中で施策・事業の参考とする。

会議	番号	意見内容	姫路市対応
19	都市基盤分野 政策3 (P7)	危険空き家について、指導して潰すまでの間に、土地と建物の所有者が変わるケースがある。また対策を打たないと、今後、代執行がどんどん増えていくことが予想される。これについて条例か特例措置で対策していく必要があると思う。法律上は難しいと聞くが市としてそのような指導できるものを作っていただきたい。	基本的には法律を超える条例の制定は困難であるため、現状としては行政指導を徹底する。

(参考) 他の分科会(第2回)での意見

番号	分野	意見内容	姫路市対応
1	産業分野	農林水産業だけでなく、商工業でも地元からの採用はなかなか厳しい。海外の研修生が増えてきているが、中小企業の場合、その研修生の住居が一番困っている。企業がどこか部屋を借りなければならず、確保する負担が大きい。市営住宅に空きがあるならその辺を調整したり、姫路市と企業がタイアップ・協賛したりして、中小企業向けに貸し出すことができないか。	市営住宅への受入など、研修生の受け入れ環境の整備については、他都市の取組事例を参考に、目指す姿を実現するための方向性や施策・事業の中で検討する。